

# 研究の概要

## 1. 研究主題

「自ら学び、考え、ともに高め合う子の育成」  
～国語科を中心に～

### ★研究を通してめざす児童の姿

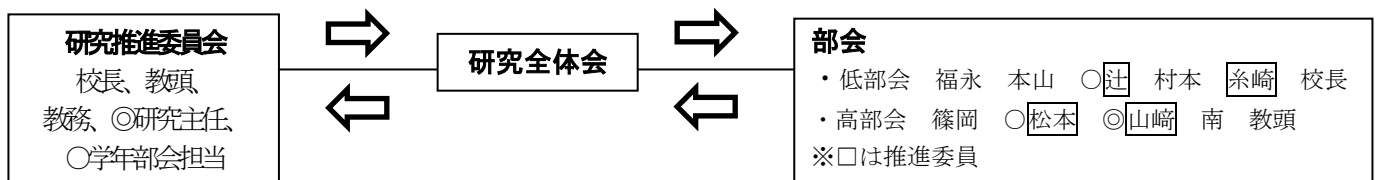
課題解決へ向け、主体的に、協働して解決しようとする子

## 2. 主題設定の理由

これまで、国語科を中心に他教科・他領域においても主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりを通して、主題に迫ってきた。その中で、以下の点が成果としてみられた。

- 指導事項やつきたい力を明確にし、学習計画を立て児童に示すことで、児童は学習活動のゴールへの見通しを持つことができた。学習課題作成シートを活用して教材研究を行うことで、ねらいにせまる学習課題を考えて授業を行うことができた。
  - 思考ツールや GIGA タブレット等を活用しながら対話的に学ぶ場を意図的に設けることで、友達と交流して自分では気づくことが難しい気づきを得たり、友達と考えを練り上げたりしながら学習を進めることができた。
  - ふり返りのノートを基にふり返りの視点について協議し、視点を明確に整理することができた。授業の初めにふり返りの視点を与えることで、児童が授業への見通しを持つことができた。また、視点を意識しながら学習に臨む姿も見られた。ふり返りで言わせたいことを想定して教材研究を行うことで、児童の目標達成の姿を具体的にイメージすることにも繋がった。
  - 基本的な学習規律の徹底を全学級で実践することで、落ちついた環境で学習を行うことができた。また、生徒指導の3機能を生かした学級づくりを全学級で意識して取り組むことができた。
- 以上のように、研究を積み重ねてきた成果が見られる一方で、次のような課題が挙げられた。
- △単元計画を構想したり、学習課題作成シートを活用したりして、ねらいにせまる学習課題を考えることができたが、児童にとって解決の必要感が足りない学習課題となることもあった。
  - △対話的に学ぶ場を意図的に位置づけたが、児童に対し「解決までの過程への見通し」を十分に持たせることができなかった。そのため、教師が交流の内容や方法を指示することになり、交流への必要感が欠けることもあった。また、グループ構成や交流の目的の共通理解、タイムマネジメントにも課題があった。
  - △ふり返りの視点を整理したが、教科や学習内容によっては視点が合わないこともあった。また、ふり返りの内容が乏しく、事前の想定とは異なることもあった。
  - △モデルとなる「聴き方」を全校で視聴しイメージの共有を図ったが、「聴くことの良さ」を実感できていない様子も見られた。また、考えを「聴いて欲しい」という話し手の意識についても高めきれなかった。

本校の児童は素直で優しく真面目な児童が多い。しかし、昨年度の児童アンケートでは、「自分にはよいところがある」と感じている児童の割合が低く、自己肯定感が低いことが確認された。原因について校内で検討した結果、児童の主体性が低いことが原因ではないかという結論に至った。児童の主体性を高めるためには、学校研究をどのように進めていく必要があるのかについて検討し「課題解決へ向け、主体的に、協働して解決しようとしている姿」をめざす児童の姿とした。この実現のために、研究の重点を①魅力的な言語活動の設定と②子供が自分で取り組める展開の工夫の2点とした。児童にとって課題解決への目的意識や必要感を持たせられる魅力的な言語活動を提示することで、その解決に向けて主体的な学習活動へと繋げていく。学習の展開場面では、自己決定のためのカードを使用しながら、自分の学びの状況を確認して必要な学習を自己決定して進めていけるようにしていく。これらの研究の重点の取組によって主体性を向上させ、児童の自己肯定感を高めていき、研究を通してめざす児童の姿の実現へと繋げていきたい。



- ①研究推進委員会の推進のもとに、研究全体会の研修内容を充実させ、研究を進める。  
研究全体会は、研究推進委員が進行・記録をする。
- ②各部会では、指導案の作成・検討、日常の授業における取り組みについての情報交換等を行う。
- ③研究全体会では、教材研究・指導案検討・模擬授業・授業整理会・講話等を行い、主題に迫る。
- ④講師を招聘し、研修を深める。
- ⑤校外研修で学んだことについて報告会を行い、全職員で共有し、実践に生かす。
- ⑥PDCAサイクルを基本とし、研究授業等で見てきた課題を日々の実践に生かしていく。

## 4. 研究の内容

### (1) 自ら学び、考え、ともに高め合う子の育成に向けて

#### ①魅力的な言語活動の設定

- ・学習指導要領解説を基に、前後の学年の指導事項を確認する。指導事項と児童の実態を基に、付けたい力を明確にする。児童がどのような姿になれば、力がついたらと判断できるのかという具体的な姿を想定し、B規準を明確に持つ。
- ・学習課題作成シートを活用し、児童にとって課題解決への目的意識や必要感を持たせられる魅力的な言語活動を考える。そして、教師が実際に言語活動を行い、目的や必要感に繋がっているかを確認する。児童にとって自分事の課題となるよう課題の提示の仕方や学習計画の立て方を工夫する。

#### ②子供が自分で取り組める展開の設定

- ・学習計画を児童と共有し、児童が解決までの過程を見通すことができるようにする。そして、学習計画と照らし合わせて学びを振り返りながら、自分の学びの状況を視覚的に捉え、自己認識できるようにする。児童が自分の状況に合った学び方を選択できるように必要な方法を提示し、自分に必要な学びの方法を決定できるように支援する。

### (2) 学びを支える基盤づくり

#### ①基礎・基本を育む土台

- ・漢字や計算の基礎基本の定着と確実な積み上げを行うことができるように、朝学習「ばっちりタイム」の時間の充実を図る。学力向上ロードマップに基づき、学力向上チームを中心に基礎・基本の定着と確実な積み上げに向けて取り組んでいく。
- ・良い文章に触れ、語彙力を養うことができるように、朝読書の時間を有効に活用する。学校司書と協力して、各学年に「おすすめの本」を設定したり、月に1回読み聞かせをしたりして、幅広い本に触れる環境を整える。
- ・子供が学習用語について正確に理解できるような授業を行っていく。学習用語を掲示することで、子供がいつでも学習用語を使用して表現することができるようにし、学習用語を大切に授業実践を行っていく。
- ・学年に応じて家庭学習として自学ノートに取り組み、自主学習を推進していく。子供のノートは校内掲示や全校集会を利用して広げ、認める場を設けることで、主体的な学びの向上に繋げていく。
- ・学年に応じて国語辞典や類語辞典をいつでも使用できる環境を整え、語彙の獲得に繋げていく。

#### ②授業を支える土台

- ・生徒指導の4つの視点を生かした学級・授業づくりに努める。互いを認め合い、安心して学習できるような学習環境を整え、児童一人一人が自己指導能力を身に付けることができるようにしていく。
- ・授業を支える学習規律を徹底する。「チャイムでスタート」「学習道具の準備」を基本とし、全学年共通で取り組み、定期的に確認していく。

## 5. 研究計画

月	日	研究会等	内容
4	17	研究全体会	研究概要・研究計画について
5	10	研究全体会	研究授業①について
6	1	計画訪問	<b>研究授業①</b> （高学年部会）
7	12	研究全体会	1学期の振り返り 児童・職員アンケート①
8	25	研究全体会	2学期の研究について
9	13	研究全体会	研究授業②について
10	31	要請訪問	<b>研究授業②</b> （低学年部会）
11	8	研究全体会	
12	22	研究全体会	研究のまとめについて 2学期の振り返り 児童・職員アンケート②
1	17	研究全体会	研究のまとめ
2	28	研究全体会	来年度の研究について

授業交流期間  
9、10、11月

### 研究授業について

- ・要請訪問・計画訪問で各部会1本ずつ行う。
- ・計画訪問で行う各教科の中で、研究の2つの重点を意識した授業づくりをする。

### 研究の重点を意識した日々の実践

- ・「魅力的な言語活動の設定」、「子供が自分で取り組める展開の工夫」が日々の授業の中で展開されていくように教材研究を進め授業実践に繋げる。

### 研究のまとめについて

- ・日々の実践の中で行ってきた2の重点についての成果と課題をまとめていく。  
国語科、他教科の2領域での実践が見られるまとめとする。

**学校教育目標**

**確かな学力と豊かな人間性を備えた  
活力ある児童の育成**

**研究主題**

**自ら学び、考え、ともに高め合う子の育成**  
～国語科を中心にして～

**研究を通してめざす児童の姿**

**課題解決へ向け、主体的に、協働して  
解決しようとする子**

**重点①魅力的な言語活動の設定**

○付きたい力の明確化

- ・解説を基に、単元で付きたい力を明確にする
- ・付きたい力を身につけた子供の姿を想定する

○目的や必要感を感じさせる課題設定の工夫

- ・学習課題作成シートを使い、やってみたい、考えてみたいという目的や必要感のある課題を考える
- ・教師が実際に言語活動を行い、目的や必要感に繋がるか確かめる
- ・自分事の課題となるよう提示の仕方、学習計画の立て方を工夫する

**重点②子供が自分で取り組める展開の工夫**

○子供が自己決定

- ・学習計画を子供と共有し、子供が解決までの過程を見通せるようにする
- ・自分の学びをふり返りながら、学びの状況を視覚的に捉え、認識できるようにする
- ・自分の状況に合った学び方を選択できるように支援し、子供が自分に必要な学びの方法を決定できるようにする

**目的に応じた適切な場面での効果的な GIGA タブレットの活用**

**基礎・基本を育む土台**

- ・ばっちりタイムの充実
- ・読書活動の充実
- ・学習用語を大切に授業実践
- ・学習用語を自主学習で活用
- ・辞典の活用

**授業を支える土台**

- ・生徒指導の4つの視点を生かした学級、授業づくり
- ・学習規律の徹底